

## 令和元年度「インターネットについてのアンケート」調査結果について

### 調査の概要

#### I 趣旨

本調査は、児童生徒の学校の授業以外におけるインターネットの利用実態と保護者の意識を把握し、児童生徒への指導や保護者への啓発活動推進の参考に資するため実施した。

現在、インターネットを利用できる様々な情報通信機器が普及しているため、調査対象とする機器は、スマートフォン、タブレット、メディアプレイヤー(iPod touchやウォークマンなど)、ゲーム機(SwitchやPSPなど)、パソコンとした。

本調査は、平成24年度以降毎年実施している。

#### II 調査対象および回答数

調査対象	学校数(校)	有効回答数(人)	
		児童生徒	保護者
小学校(4~6年)	12	982	805
中学校	12	1,012	855
高等学校	16	1,700	1,231
合計	40	3,694 (有効回答率98.1%)	2,891 (有効回答率77.8%)

#### III 調査の実施時期

令和元年8月~10月

#### IV 結果の概要

- 1 機器使用の低年齢化が進んでいる。** ⇒ 詳細はP2
  - ・スマートフォンの使用は小中学生にも広まっており、機器の使用開始時期も早まっている。
  - ・SNSの利用は小中学生にも広がっている。
- 2 機器の長時間使用の状況があり、ネット依存の傾向を自覚する児童生徒・保護者は増加傾向にある。** ⇒ 詳細はP3~4
  - ・中高生の深夜の使用(学習用以外)は急増しており、保護者の認識とに大きな差がある。
  - ・小中高生の多くがゲームを利用しており、その利用率は男子の方が高い。
  - ・ネット依存の傾向を自覚する児童生徒は多く、「睡眠時間が短くなった」など課題も自覚している。
- 3 ネット上のトラブルを経験している。** ⇒ 詳細はP4
  - ・ネット上のトラブルや「ネット上だけの知り合い」との関わりには、学齢や性別によって特徴がある。

【参考】学校の授業以外でインターネットを利用していると回答した小中高校生の割合

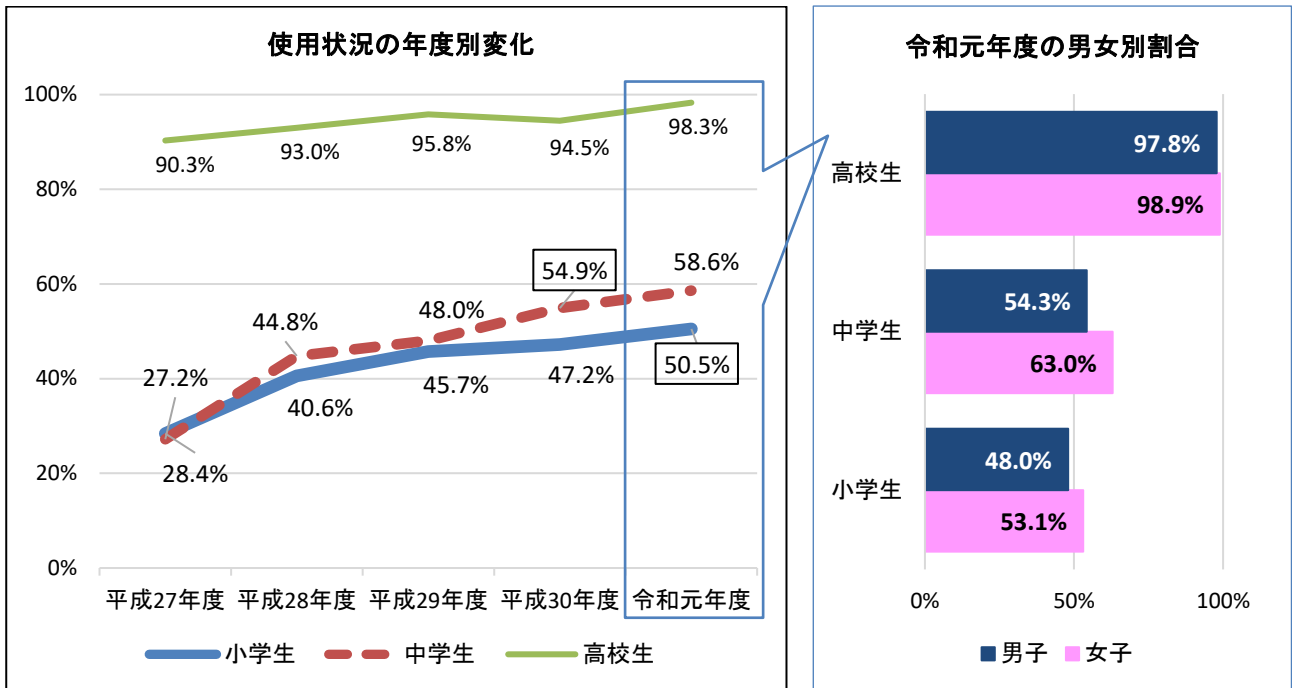
小学生	中学生	高校生
89.5%	96.2%	98.8%

\*小中高校生全体に占める割合

# 1 機器使用の低年齢化が進んでいる

## (1) スマートフォンの使用

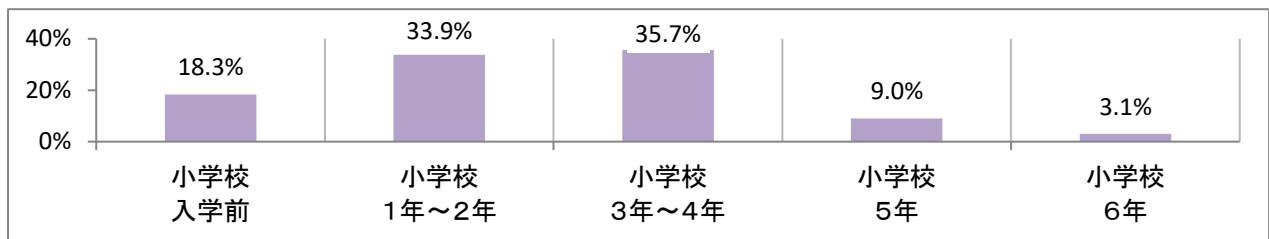
\*学校の授業以外でインターネットを利用していると回答した小中高校生に占める割合



- スマートフォンの使用率は、前年度中学生で5割を超え、今年度小学生でも5割を超えた。
- スマートフォンの使用率は、女子の方がやや高い。

## (2) 機器の使用開始時期

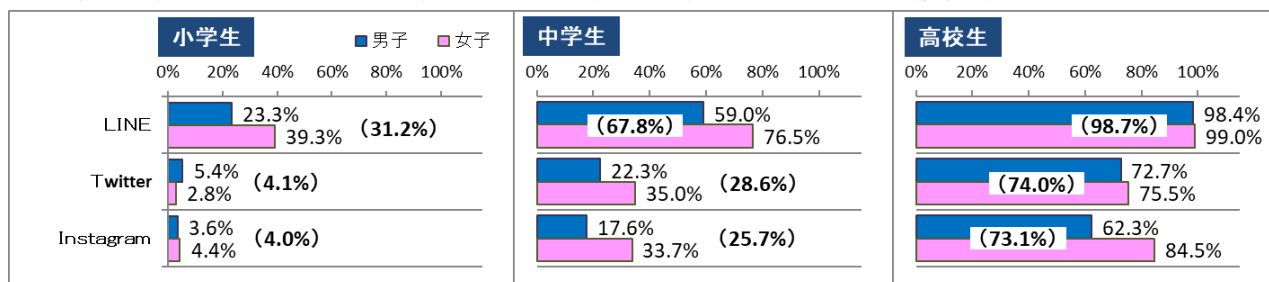
\*学校の授業以外でインターネットを利用していると回答した小学6年生に占める割合



- 現在の小学6年生の多くが、小学4年生までに使用を開始している。そのうち約2割は小学校入学前から使用を開始している。

## (3) 使用したことのあるSNSについて

\*学校の授業以外でインターネットを利用していると回答した小中高校生に占める割合（複数回答）



- SNSの利用は小中学生にも広まっており、その利用率は女子の方が高い。

◎ スマートフォンなどの利用開始時の啓発が重要  
～ スマホ世代の親への啓発が重要 ～

## 2 機器の長時間使用の状況があり、ネット依存の傾向を自覚する児童生徒・保護者は増加傾向にある

### (1) 使用時間と使用時間帯（平日）

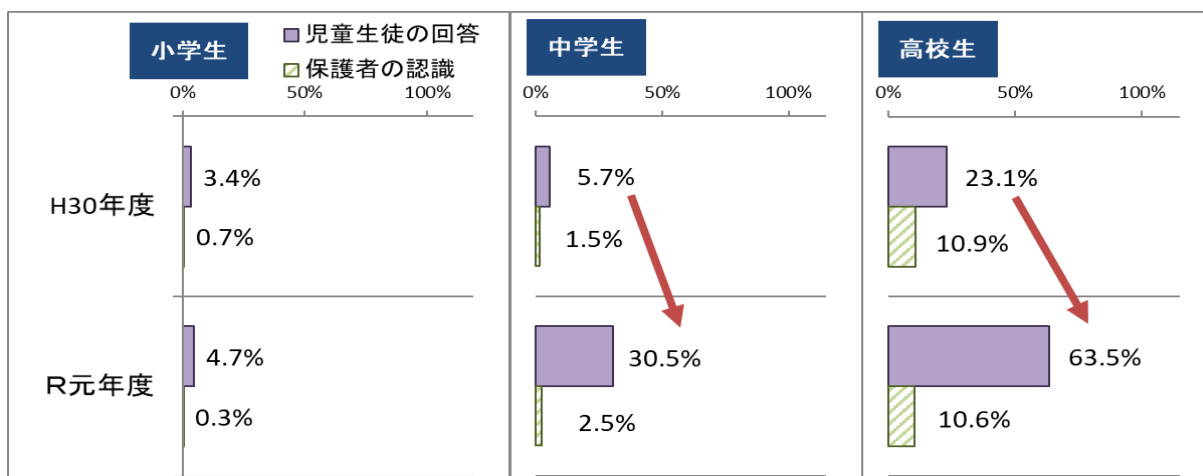
\*学校の授業以外でインターネットを利用していると回答した小中高年生とその保護者に占める割合

#### ① 使用時間

	使用しない	1分 ～30分	30分 ～1時間	1時間 ～2時間	2時間 ～3時間	3時間 ～4時間	4時間 ～5時間	5時間 以上
小学生	5.9%	21.5%	27.1%	24.9%	10.1%	4.7%	2.5%	3.3%
中学生	3.7%	11.5%	21.3%	28.5%	19.4%	7.7%	3.5%	4.4%
高校生	0.4%	1.5%	4.2%	17.2%	27.6%	22.2%	11.4%	15.6%

【参考】「子どもとメディア信州」が県内の小中学生約23000人に実施したアンケートでは、「5時間以上」使用する小学生は約4%、中学生で約4%。

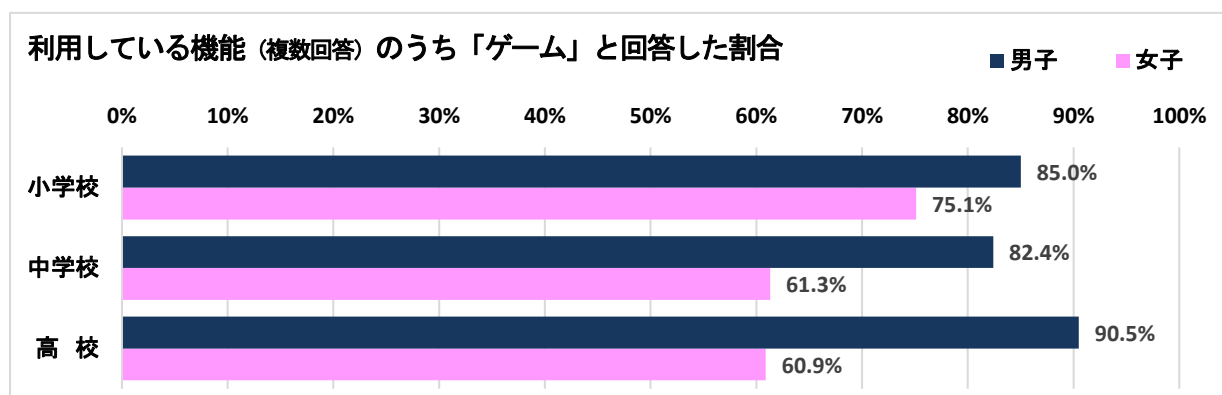
#### ② 使用時間帯のうち「家で、夜12時から翌朝4時までの間に使用することがある」（学習用以外）と回答した割合



- 児童生徒の機器の長時間利用の状況がみられる。
- 中高生の深夜の使用（学習用以外）は急増しており、保護者の認識とに大きな差がある。

### (2) ゲームの利用

\*学校の授業以外でインターネットを利用していると回答した小中高年生に占める割合



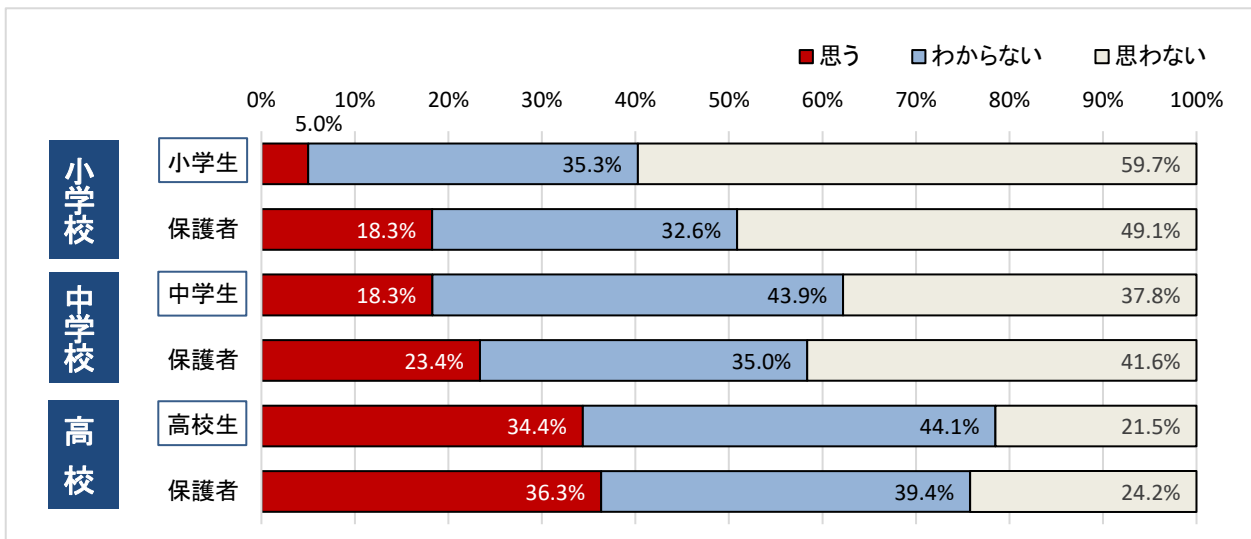
【参考】国立病院機構久里浜医療センターが10～29歳（10～18歳のサンプル数が多くなるように設計）約5000人に行った「ネット・ゲーム使用と生活習慣についてのアンケート」結果では、ゲーム時間が長くなるにしたがって依存につながる危険性や、生活への支障を指摘している。また、男性の方が女性より長時間ゲームをしている。

- 小中高生の多くがゲームを利用しており、その利用率は男子の方が高い。

### (3) ネット依存の傾向

\*学校の授業以外でインターネットを利用していると回答した小中高校生とその保護者に占める割合

#### ① 自分（子ども）に「ネット依存の傾向があると思うか」と回答した割合



※「思う」（前年度比）：小学生 H30 年度 5.5%→5.0%、中学生 H30 年度 12.2%→18.3%、高校生 H30 年度 31.3%→34.4%

【参考】「子どもとメディア信州」が実施したアンケートでは、スマホを「やめられない、注意されるとイライラする」と回答した小学生は約7%、中学生で約5%、「なかなかやめられない」と回答した小学生は約40%、中学生は約47%

#### ② 機器の使い方を振り返って（複数回答）

	使用する時間が長い	家庭学習の時間が短くなった	睡眠時間が短くなった	機器のことを注意されるとイライラする
小学校	35.3%	15.6%	10.4%	8.6%
中学校	52.5%	26.7%	27.3%	13.2%
高校	72.7%	37.7%	38.2%	11.7%

【参考】「子どもとメディア信州」が実施したアンケートで、「スマホなどを使うようになって生活は変わったか」の回答

	使用時間が長くなっている	勉強時間が短くなった	睡眠時間が短くなった
小学校	25.8%	11.1%	13.2%
中学校	34.1%	27.8%	26.3%

#### 【参考】長時間利用が及ぼす影響

過度な機器の利用は、子どもたちの生活に様々な影響を及ぼしている。

とくにゲームについては、「学業成績の低下」「昼夜逆転」などの悪影響が指摘されている（国立病院機構久里浜医療センター）。WTO（世界保健機関）は、日常生活よりもゲームを優先し、健康を損なうなどの問題が起きても続けてしまう依存症を「ゲーム障害」として認定している。

「子どもとメディア信州」が実施したアンケートでも「スマホやゲーム機などを使って心配になったこと」として、「視力の低下」「学力の低下」を自ら心配する小中学生がいることを指摘している。

- ネット依存の傾向を自覚する児童生徒は多く、高校生で3人に1人、中学生は5人に1人の割合でいる。保護者も同様の認識を持っている。また、「わからない」とした者も約4割いる。
- 児童生徒は「睡眠時間が短くなった」「家庭学習の時間が短くなった」「注意されるとイライラする」などの課題を自覚している。

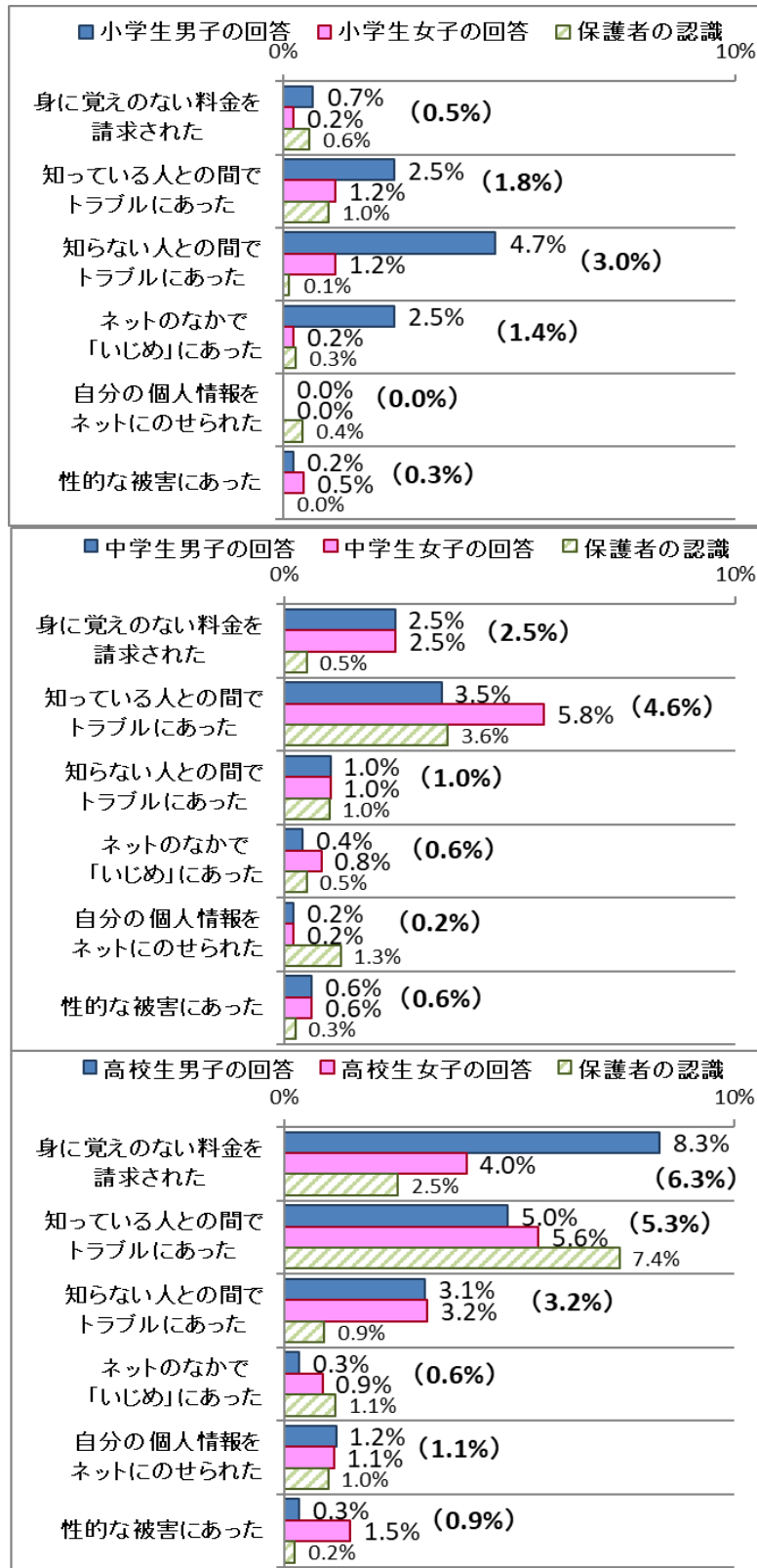
◎ 利用についての家庭や学校での話し合い、ルール作り、自主規制できる力をつけることが必要

◎ 依存傾向のある子どもたちへのアプローチや予防、相談機関との連携が必要

### 3 ネット上のトラブルを経験している

#### (1) 機器を利用して経験したこと（複数回答）

\*学校の授業以外でインターネットを利用していると回答した  
小中高年生とその保護者に占める割合  
( )は男女合計の割合



#### (2) 「ネット上だけの知り合い」

\*学校の授業以外でインターネットを利用していると回答した小中高年生に占める割合  
[ ]のH30年度の割合

小学生	知り合いがいる	「会ってもいい」と思う	会ったことがある
男子	17.3% [17.6%]	4.5% [1.9%]	0.9% [0.6%]
女子	8.1% [7.7%]	0.2% [0.6%]	0.0% [0.0%]

●小学生のネット上のトラブルは男子に多く、保護者の認識と差がある。また、「ネット上だけの知り合い」と「会ってもいい」と回答した男子は増加した。

中学生	知り合いがいる	「会ってもいい」と思う	会ったことがある
男子	22.1% [17.3%]	4.9% [3.1%]	0.6% [1.3%]
女子	19.5% [9.3%]	4.9% [1.8%]	2.1% [0.4%]

●中学生の「ネット上だけの知り合いがいる」「会ってもいいと思う」と回答した生徒は、女子で大きく増加した。

高校生	知り合いがいる	「会ってもいい」と思う	会ったことがある
男子	28.2% [24.7%]	7.1% [6.7%]	3.8% [4.4%]
女子	33.4% [28.7%]	7.6% [9.3%]	6.4% [6.9%]

●高校生のネット上のトラブルには男女に差があるものもある。

◎ ネット利用の危険性を小学生のうちから理解することが必要  
～ おとな（教員・保護者）の理解が不可欠 ～

## 方向性と対策

3つの調査結果から明らかになった課題

1 機器使用の低年齢化

2 長時間使用とネット依存

3 ネット上のトラブル



### R2以降の方向性

- インターネットの適正利用のために、児童生徒自らが主体的に考えルールづくりをする取組を推進する。
- 実態調査の実施や調査結果の分析について、「子どもとメディア信州」等民間団体等と連携を図る。
- 学校や保護者を支援するため、携帯事業者・相談機関・医療機関など専門家との連携を図る。

### 具体的な施策

- ・ 深刻化するネット依存への対応、幼児期からの啓発等について、県民文化部・健康福祉部・県警等との連携を進める。
- ・ 生徒が主体的にSNS等の利用について考える「高校生ICTカンファレンス」を中学生も参加して開催する。開催にあたっては、県民文化部と共同で開催し、成果を発表する機会を設ける。
- ・ 「子どもとメディア信州」が市町村教育委員会と共同で実施する実態調査の分析や活用について連携を図り、保護者への啓発の取組や教員向け研修会を開催する。
- ・ 「ネットを契機とする性被害防止のための指導方法等研修会」の参集対象を小学校教員まで拡充し、携帯事業者等と連携し、専門的な講師による研修を実施する。